The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	1988-89年度の年間プログラム
Author(s)	西口, 光一
Citation	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要. 1989, 12, p. 62-74
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25289
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

1988-89年度の年間プログラム

西　口　光　一

I．はじめに

本論はアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下、「センター」と略称する。）の1988-89年度のプログラムの報告である。現在のセンターのプログラムの概観及びプログラムを構成する各コースの目的及び内容については紀要11号の小松論文で紹介されている。本論では、この小松論文を前提として、88-89年度の年間プログラムを紹介し、さらに、主に年度後半の各コースの具体的な教育内容を報告する。

II．教　　育

1．年間プログラム

年間プログラムの状況は表1に示されている通りである。本年度は第1週目から第18週目までが前半で、第19週目以降が後半となる。

2．年度前半の教育

年度前半の教育は概ね87-88年度の教育に準じた形で行われた。

午前のコースの中では、会話Ⅱ及び会話Ⅲで教材の改訂が行われた。会話Ⅱについては、第1限で全期間を通じて展開されるストーリー性のある会話を材料に具体的な登場人物が展開する言語行動を学習し、第2限でその言語行動を行うために必要な機能表現を学習し、そして、第3限で第1限と第2限で学習したことをもとに応用的な場面で学習目標の言語行動を練習する、という形で授業を進めることにより教育効果の改善を図ることとし、それにともなって教材も改訂され

表1　88-89年度年間プログラム状況

週	日付	休日	午前	午後
1	9/ 1- 2		オリエンテーション、プレイスメント／プロフィシェンシー・テスト、インタビュー	
2	5- 6			
2	7- 9			コンプリヘンション　I
3	13-16	木		
4	19-23	金	会　話　I	
5	26-30			
6	10/ 3- 7			コンプリヘンション　II
7	10-14	月	10/11 会話I　テスト	
8	17-21		会話　II－①	
9	24-28			
①	10/31-11/4		秋　期　休　暇	
10	11/ 7-11		会話　III－①	
11	14-18		11/14:ミニ発表会	
12	21-25	水		
13	28-12/2			コンプリヘンション　III
14	12/ 5- 9		会話　II－②	
15	12-16		12/15:評価ｾｯｼｮﾝ	
②	12/19-1/6		冬　期　休　暇	
16	1/ 9-13		会話　III－②	
17	16-20	月	1/19: ミニ発表会	
18	23-27		会話　II－③	
19	30-2/3		月～金のIIとIII：ｺﾝﾌﾟﾘﾍﾝｼｮﾝ IV	
20	2/ 6-10		月と水のI：ISJII	
21	13-17		火と木のI：会話IV（討論会）	
22	20-24			
23	27-3/3			
24	3/ 6-10			
③	3/13-3/24		春　期　休　暇	
25	3/27-31			グループ・リーディング、リーディング・チュートリアル
26	4/ 3- 7			選　択
27	10-14			
28	17-21			
29	24-28			
④	5/ 1-5/5		ゴールデン・ウィーク	
30	5/ 8-12		プロジェクト・ワーク、新聞ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ、討論会（選択）	
31	15-19			
32	22-26			
33	29-5/31			
33	6/ 1- 2		プロフィシェンシー・テスト	
34	6/ 5-6/9		発表会、評価	

た。また、会話Ⅲでは、従来の談話構成練習に加えて、談話を構成する語法や文型の解説及び練習を強化した。

一方、午後の各コースでは、教材に対する学生の興味や反応また教材の話題性や時事性に対応して毎年適宜教材の差し換えを行っている。本年度各コースで扱われた内容は以下の通りである。

(1) コンプリヘンションⅠ

1. たずねる　2. ことづける　3. 趣味・経験

4. 町の中の店

(2) コンプリヘンションⅡ

1. 野毛ストーリー　2. 日本人と余暇　3. ひと　4. 旅

5. 家族の役割　6. 高齢化社会と福祉　7. 結婚

(3) コンプリヘンションⅢ

1. 日本の開国　2. 世界と日本　3. 大学と大学生

4. 住まいと文化　5. 戦後史の中の日本人

6. 日本の雇用制度　7. 校則　8. 環境造形

＊9. 都市と環境　＊10. 労働と余暇　＊11. 子連れ論争

＊12. 健康とスポーツ

（＊は、選択ユニットで、各クラスでこれらの中から2つ選ぶ。）

3. 年度後半の教育

前年度の反省のうちの大きなものの一つに、コンプリヘンションⅣと選択コースの性格づけが曖昧であるということがあった。本年度は、この曖昧さを解消し、学生が自分の興味と専門によって一層適切なコースが選択できるようにプログラムを改訂した。コンプリヘンションⅣの方は従来通りの統合的アプローチによる興味別のクラスとした。一方、選択コースは学生の専門領域の日本語を学習する分野別日本語のクラスからなるＡ群（週2回）と、漢字クラス、映画・ドラマ及びその他の学生の希望や学習上の必要により設けられるクラスか

らなるB群（週1回）に分けて行われた。また、ISJⅡについては、前年度はコンプリヘンションⅣのクラスで適宜行うとされたが、それでは指導が中途半端になってしまうという反省から、本年度は全クラスとも月曜日と水曜日の第1限目をこの指導にあてた。その他のコースは概ね従来通りの形で行われた。以下、コンプリヘンションⅣ、選択コース、グループ・リーディングとリーディング・チュートリアル、プロジェクト・ワークと聴講、の順で各コースの状況を報告する。

(1)　コンプリヘンションⅣ

先述したように本年度のコンプリヘンションⅣは興味別コンプリヘンションとして行われた。コース及び各々の内容は表2の通りである。コースを提示する段階では、下記の3コースの他に日本事情のコースも準備していたが、学生が下記の3コースに集中したので3コース体制で行うこととした。とりわけ大衆文化コースは3セクションと非常に多くなったため、全課程の約3分の1を各クラスで学生の興味により選択できるようにした。表中の＊は選択ユニットを表す。

表2　88-89年度　コンプリヘンションⅣの状況

コース	内容
ビジネス・社会（2セクション）	創業者、通産省、家庭と子供、政治と人、外資企業、リクルート問題
政治・社会	創業者、防衛問題、第2次大戦の終結と天皇制、政治と人、ブッシュ新政権と日米関係の展望、リクルート問題
大衆文化（3セクション）	漫画、広告、浮世絵とポルノ、歌舞伎、映画、＊演劇、＊祭り＊旅行、＊かるた、＊演歌、＊落語

(2) 選択コース

選択コースは表3のようなコース及び内容で行われた。選択Ｂの新聞・ニュースは選択Ａで新聞・ニュースを取らなかったが新聞・ニュースの学習を希望するという学生のために設けられた。また、本年度は和歌、俳句、詩等を研究するあるいはそれに興味をもつ学生が多数いたので、詩歌のクラスを設けることとした。女性問題及び漢文のクラスは学生からの希望による。文法復習クラスは文法の復習を必要とする学生及びそれを希望する学生を対象に設けられた。

表3　88-89年度　選択コースの状況

＜選択Ａ＞

コース	内容
社会学・人類学	祖父江孝男「文化人類学入門」（中公新書） 中根千枝、鈴木孝夫、土居健郎、青木保の著書からの抜粋 ＮＨＫ市民大学講座「男女差と文化」、「日本の女性研究」 家永庸三「歴史を見る眼」
法律	法律文書読解基礎知識の養成、憲法の中の天皇、日本の司法制度、法意識、家族法、ビジネスと法律、最近の判例など
現代文学	夏目漱石「三四郎」、川端康成「雪国」、島尾敏雄「夢の中の日常」、遠藤周作「影法師」、津島佑子「符丁」、石川淳「だからいわないことじゃない」、芥川龍之助「羅生門」、日本文学の講演 2回、近代文学館見学
古典	右文書院の「文語文法」を中心に文法を学習、かつ古典文学鑑賞のために古典の名作の抜粋を読む。「奥の細道」9回、「日本永代蔵」3回、「徒然草」3回、その他「方丈記」、「平家物語」、「枕草子」、「今昔物語」、「源氏物語」、「堤中納言物語」、「紫式部日記」、「伊勢物語」など

新聞・ニュース（2セクション）	取り上げた記事・ニュースの話題：国際収支、内閣改造、天皇御崩、遷都論、横浜博覧会、外国為替・金融、貿易摩擦、ＦＳＸ共同開発、春闘・労働、裁判傍聴メモ訴訟、選挙、経済動向、中ソ首脳会談など

＜選択Ｂ＞

コース	内容
詩歌	大岡信「折々のうた」（岩波新書）全14回
新聞・ニュース（3セクション）	国際収支、天皇御崩、内閣改造、遷都論、外国為替・金融、貿易摩擦、春闘・労働、中ソ首脳会談
映画・ドラマ（3セクション）	「男はつらいよ」望郷篇、「青春残酷物語」、「泥の河」、「わが美わしの友」、「絆」
女性問題	「ハガキ通信にみる日本女性研究」（婦人公論）、男女雇用機会均等法と1-3年後の記事（日経ウーマン）、「男の自立と労働組合」、「夫婦だって別姓名乗ってもいいじゃない」、「ウーマン・リブ登場から80年代論争」（フェミニストの周辺）、「男と家事」など
漢文	"An Introduction to Kanbun" 及び自主教材
漢字	ＡＳＪ漢字シート、ビデオ「ミニミニ漢字辞典」、ゲーム的な漢字クイズ、熟語・関連語・反対語等の拡充
文法復習	ＡＳＪの表現練習、会話Ⅲの復習

(3) グループ・リーディングとリーディング・チュートリアル

選択コースＡの分野別日本語では各分野の一般的な語い・用語・語法等を学習するとともに、代表的な作品を読む。また、教材の選択や単語表の作成は教師が行った。これに対し、グループ・リーディングとリーディング・チュートリアルでは読み物の選択についても学生の希望が受け入れられ、単語表の作成なども学生が積極的に行う。本年

度のグループ・リーディング及びリーディング・チュートリアルの状況は表4、表5の通りである。

表4　88-89年度　グループ・リーディングの状況

グループ	読み物
文学①	中上健次「草木」、「化粧」、「修験」、「欣求」、「羅漢」、「浮島」、泉鏡花「高野聖」
文学②	村上春樹「ノルウェーの森」
文学③	向田邦子「かわうそ」、「だらだら坂」、「犬小屋」、志賀直哉「小僧の神様」
法律	篠塚昭次「民法　よみかたとしくみ」、青山紘一・山田森一「知的所有権の攻防」
宗教	桑原博史「西行物語」、栄西「興禅護国論」、道元「辨道話」
ビジネス	宮崎勇「日本経済これからどうなる」、博報堂生活総合研究所「『分衆』の誕生」
日本文化	田中優子「江戸の想像力」、九鬼周造「『いき』の構造」、奥野健男「原風景」、中村幸彦「戯作論」
人類学	萩原晋太郎「職工の語るその歴史・町工場から」、青木秀男他「『寄せ場』研究の諸問題」、手塚和彰「外国人労働者」、宿谷京子「アジから来た花嫁」

表5　88-89年度　リーディング・チュートリアルの状況

学生の専門	読　　み　　物
文　　学	「吉増剛造詩集」思潮社、現代詩読本「現代詩入門」思潮社
科　学　史	井村暋全「中国疫病考」（地方誌に記載された）
東アジア研究	井上光貞「日本の歴史」、 小林行雄「古墳の話」（朝日新聞の記事）
言　語　学	伊藤千尋「燃える中南米」、外務省「ニカラグア共和国概観」
ジャーナリズム	東洋経済、日経ビジネス、エコノミスト等に載った「石油業界の規制緩和」に関する記事
民　俗　学	佐藤健二「読書空間の近代」、岸田秀「幻想を語る①」
歴　　史	堀直「清朝の回疆統治についての二、三の諸問題」、羽田明「中央アジア史研究」
言　語　学	井出祥子「言語と性差」、F.C.パン「日本語の男女差」、井上史雄「言語変化と社会言語学」
東アジア研究	(AERA)富岡隆夫「自民党議員に聞く米国観」、「ポール・ケネディへのインタビュー記事」、三浦展「ライフスタイルのセカンドウェア」、「Hanakoさんの出現」
美　　術	中村英樹「鮮烈なる断片－日本の深層と創作現場の接点－」

(4)　プロジェクト・ワークと聴講

本年度は学年の始めにプロジェクト・ワークの予告を行い、また、冬休みに入る前にプロジェクト・ワークの要領を解説するとともに前年度のプロジェクト・ワークの作品や発表の状況等のビデオを見せて、事前にかなりプロジェクト・ワークに向けてのオリエンテーションを行った。その効果があってか、学生は比較的スムーズにプロジェクト・ワークを開始し、非常に積極的に取り組んだ。また、発表会で示されたようにその成果も非常に立派なものであった。進め方の面ではまだ課題を残すものの、4年前に実践という名でスタートしたプロジェクト・ワークはセンターのプログラムの仕上げ段階の1コースと

して大きな位置を占めるようになってきた。本年度行われたプロジェクト・ワークは表6の通りである。

表6　88-89年度　プロジェクト・ワークの状況

学生の専門	テ　ー　マ
ビジネス、法律	横浜博覧会とMM21について
文　学	文学作品を書く
言　語　学	ニカラグア問題
ビジネス、ジャーナリズム	天皇制について
法　律	地下通路での商売について
建　築	MM21内の日本研究センターの設計
民　俗　学	会津の地酒について
美　術	龍生派の作家の作品について
政　治　学	ＦＳＸ問題
東アジア研究	Hanakoの世代…現代日本のＯＬについて
言　語　学	女性言葉と男性言葉
人類学（２名）	寄せ場の研究
ビジネス（２名）	相　撲
文　学、東アジア研究	河　童
法律、言語学、文　学	国際結婚

一方、本年度は聴講の方も希望者が多く、13大学に20名もの学生が聴講に行った。うち12名は横浜市の教育課の斡旋により聴講の機会を得、残りの8名は知人等の紹介で聴講の機会をつくった。本年度の聴講の状況は表7に示された通りである。ちなみに、聴講とプロジェクト・ワークの両方を行った学生が本年度は8名いた。

表7　88-89年度　聴講の状況

大　学	学部／学科	内　容	学生の専門
関東学院女子短期大学	国文学部	現代文学	文　学
横浜国立大学	経済学部	国際関係の演習	ビジネス
横浜国立大学	経済学部	知的財産権概説	法　律
東京大学	東洋文化研究所	宋の時代の歴史	科学史
早稲田大学	法学部	民法総則	法　律
横浜国立大学	教育学部	芭蕉の連句	文　学
横浜市立大学	文学部	古典文学	文　学
横浜市立大学	文学部	現代日本文学	言語学、文学
日本大学	哲学科	禅仏教の演習	仏教学(2名)
神奈川大学	工学部	日本の建築史	建築（2名）
慶応大学	文学部	中国近代史	歴　史
明治学院大学	文学部	社会言語学	言語学
横浜国立大学	文学部	考古学	東アジア研究
学習院大学	文学部	日本の美術史	美術史
一橋大学	社会学部	女性学	ジャーナリズ
慶応大学	文学部	日本美術史	美　術
成城大学	文学部	現代日本文学	文　学

4. 発　表　会

従来と同様本年度も年度の終わりに2日間にわたり発表会が行われた。発表題目は表8に示された通りである。表8と表6を対応させて見ればわかるように、15のプロジェクト・ワークのうち14までが発表に結びついている。また、発表は全般的にビデオやスライド、OHPなどを効果的に使ったものが多く、AV時代にふさわしいものであった。

表8　88-89年度　発表題目と発表に関連する研究／学習

注．ＰＷはプロジェクト・ワーク、ＧＲはグループ・リーディング、ＲＴはリーディング・チュートリアルを表す。

発　表　題　目	発表に関連する研究／学習
国貞の妖怪画について	聴講
河　童　（２名）	ＰＷ
ＦＳＸ問題について	ＰＷ
都心臨海部総合整備基本計画／ﾊｸ'89(2名)	ＰＷ
MM21内の日本研究センターを考える	ＰＷ
言葉と味雷：きき酒の記号論	ＰＷ
ワインの味	
「Hanako」さんの出現	ＰＷ
駅構内店舗の商権について	ＰＷ
石油業界の規制緩和	ＲＴ
日本と世界経済に関する一つの見通し	
称名寺について	聴講
古墳の話	ＲＴ、聴講
中国と日本の疫鬼	ＲＴ
清朝に於けるイエズス会神父とイスラム人の側女…乾隆帝のエキゾチック・ショーケースをめぐって	ＲＴ
国際結婚　（４名）	ＰＷ
お相撲について　（２名）	ＰＷ
浮世絵における退廃という概念について	
街	ＰＷ
現代人の内なる天皇　（２名）	ＰＷ
言葉における男女差	ＲＴ、ＰＷ
日本と男女平等	選択：女性問題
現代日本文学について	ＧＲ、聴講
日本の詩歌を読んで	選択：詩歌、聴講

非常口がない時（吉増剛造の詩から）	RT
谷口雅邦…“区切り”を越える美術	PW、RT
仲間に出会ったら…寄せ場研究中間報告（2名）	RT、PW

Ⅲ．おわりに

センターでは、87-88年度にプログラムの大幅な改訂を行い、本年度さらに部分的な改訂を行った。昨年度の改訂により、プログラムの前半で、全ての学生に必要と考えられる日本語による社会行動能力と一般的な内容表現能力及び専門家としての高度な日本語能力の基礎を養成し、後半で個々の学生の興味やニーズに対応した個別的な専門的日本語能力を養成する、という方向が明らかになった。さらに本年度の改訂では、コンプリヘンションⅣと選択コースの性質が明らかにされ、選択コースで分野別日本語を設けることにより各分野で必要な基礎的な日本語能力を養成し、その上で、グループ・リーディングやリーディング・チュートリアル、あるいは、聴講、プロジェクト・ワークを行う、という方向が明らかになった。これは、個々の学習者のニーズに対応して教育目標を設定し教育内容を決定するという従来の「学習者中心のアプローチ」を行いつつも、一方で、教育目標を達成するための学習の効率を重視する「学習中心のアプローチ」(cf. Hutchinson and Waters 1987)の要素を加味する方向であると言える。今後とも教育目標及び教育内容を個々の学生のニーズに対応させつつ、同時に、学生の個別的な目標が効率的に達成されるようなプログラムの構成と各コースの教材開発及びコース運営が要求されよう。

参　考　文　献

Breen, M.P. and Candlin, C.N.1979. The essentials of a communicative curriculum in language teaching . Applied Linguistics 1－2

Hutchinson, T. and Waters, A. 1987. English for Specific Purposes ; A Learning−centerd Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

小松紀子　1988　「1987－88年度　年間プログラム」　『紀要』11 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター

西口光一　1988　「統合的アプローチによる中級日本語教育」　『紀要』11アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター